

## 第 152 回 関西大学メディア懇談会 実施概要

1 日 時 2024 年 9 月 26 日 (木) 15 : 00 ~ 17 : 00

2 場 所 梅田キャンパス 8 階ホールおよびオンライン (Zoom ウェビナー)

3 内 容

### (1) 研究発表 (15 : 05~15 : 25)

別紙 1

発表者 : 岡田 朋之 (総合情報学部教授)

テーマ : 博覧会とツーリズムに関する研究

### (2) 第 44 回「地方の時代」映像祭 2024 概要記者発表 (15 : 25~15 : 40)

別紙 2

・概要説明および入選作品紹介

／市村 元 (「地方の時代」映像祭プロデューサー、関西大学客員教授)

### (3) 学内状況の説明 (15 : 40~16 : 30)

● ビジネスデータサイエンス学部設置が正式決定

P1

● NPO 法人 CoCoTELI (ココテリ) の活動報告について

別紙 3

● 関大万博部による「関杯プロジェクト」について

P2、別紙 4

● 関西大学のプログラムが集結! 「CAN&PRO MAP」を発行

P3、別紙 5

～自分にぴったりの学内プログラムを見つける関大生のためのツール!～

● 関西大学を舞台とした興業映画制作について

P4、別紙 6

● 本学出身のパリ 2024 オリンピック・パラリンピック競技大会への出場選手

P6

(イベントの案内)

・吹田みらいキャンパスにおける今後のイベント

P5、会場置き配布

・企画展「仁徳天皇陵と近代の堺」

P5、会場置き配布

(その他会場配布物)

・ビジネスデータサイエンス学部パンフレット

会場置き配布

・グリーンエレクトロニクス工学科リーフレット

会場置き配布

・CAN&PRO MAP

会場置き配布

・関西大学ニューズレター『Reed』第 77 号

会場置き配布

・『関西大学通信』Vol.517

会場置き配布

### (4) 意見交換・質疑応答 (16 : 30~)

テーマを問わず自由にご意見・ご質問ください。(音声および Q&A いずれでも可)

※オンライン参加の場合は、随時、Q&A 機能を使つての質問を受け付けます。

※時間の都合上、後日回答になる場合もございますこと、あらかじめご了承ください。

4 大学関係・出席者 (予定)

前田裕学長、大津留智恵子副学長、岡照二学長補佐、岡田朋之教授 (総合情報学部)、市村元客員教授、平井登威 (社会安全学部 4 年次生)、飯田妃美香 (社会学部 4 年次生)、串田詩歩 (法学部 1 年次生)、松岡誠也 (経済学部 1 年次生)、藪田和広大学本部長、玉村まゆか広報課長 ほか

以 上

【次回のメディア懇談会 (第 153 回) について】

2024 年 11 月中旬の開催を予定しております。開催決定の際には、改めてご案内申し上げます。

# 博覧会とツーリズムに関する研究

総合情報学部 教授 岡田朋之

## 【概要】

### ▽エキシビションとツーリズムの研究

大阪および関西地域は来年に万博の開催を控える一方、近年の外国からの観光客の増加にともなう経済効果とオーバーツーリズムのジレンマに直面している。これらのなかでツーリズム（観光）と博覧会、そしてミュージアムは、実は西洋近代の歴史において互いに深くかかわり合いながら発展を遂げてきた。詳しい説明は省略するが、それはあたかもニワトリと卵の関係のようなものといってもよい。

岡田を代表とする研究グループは、2019年度から4年間にわたり、関西大学経済・政治研究所のプロジェクトとして共同研究をおこなった。そのテーマを「グローバルゼーションのもとでの地域の持続的発展に貢献するイベントとツーリズムに関する調査研究」と定め、略称を「エキシビションとツーリズム」研究班とした。さまざまな国際博覧会とその跡地、国内外各地のミュージアム、注目すべきダークツーリズムのスポットなどの現地に赴いてフィールドワークを実施、その成果について共同討議を繰り返し、最終成果を共著『ツーリズムの脱構築——地域の語りと観光・博物館・博覧会』（関西大学出版部、2024年刊）にまとめた。その中では「語り」を中心的な概念に据えて、観光とミュージアム、博覧会を捉えなおしていった。

この研究結果から大阪・関西万博の現状を振り返ると、2つの課題点が浮き彫りになってくる。ひとつは、どのようなレガシーを残し、地域の持続的な発展へとつないでいくか、という道筋が明確に示されないまま、開幕を迎えようとしている状況。もうひとつは「TEAM EXPO」のように市民参加を標榜しつつも、その具体的な方法や手段が明示されていなかったり、整備されていなかったりすることなどである。

### ▽共通教養チャレンジ科目「万博に学ぶ未来社会のデザイン」（2024～25年度春学期開講）

上記共同研究の成果を踏まえた全学向けの教養科目の講義。おそらく現時点において、各大学の中で、「万博」を授業科目名に冠した唯一のものである。岡田と劉雪雁（関西大学社会学部教授）をコアメンバーとして、関係する7名の講師によるリレー講座。研究者、地元住民、一般来場者、出展者などそれぞれの立場から国際博覧会（＝万博）とはどういうイベントなのか、どのような今日的な意義をもつのかを明らかにしていく。

## 【プロフィール】

1965年大阪府生まれ。関西大学総合情報学部教授。専門はメディア論、文化社会学。1994年大阪大学大学院人間科学研究科博士課程単位取得退学。同年総合情報学部創設とともに助手として着任。以後専任講師、助教授を経て2007年より現職。また2015～16年にフィンランド・アールト大学芸術デザイン建築学部客員教授、2022～23年にオーストラリア・王立メルボルン工科大学客員研究員を歴任。携帯電話の普及初期からモバイルメディア研究に携わりつつ、愛知万博以降ほぼ全ての万博で現地調査を実施、デジタル時代の博覧会の研究に取り組んでいる。主な著書に『ツーリズムの脱構築——地域の語りと観光・博物館・博覧会』（編著、2024年）、『ケータイ社会論』（共編著、2012年）、『私の愛した地球博——愛知万博2204万人の物語』（共編著、2006年）など。

以上